

医療部会コンピテンスリスト 2023年5月8日版

カテゴリー	大項目	中項目	小項目
共通コンピテンス	公認心理師の職責と倫理を理解して実践できる	法の理解と遵守、公認心理師法の理解と法的義務(信用失墜行為の禁止、秘密保持義務、連携の義務等)、情報の適切な扱い	
		要支援者の主体性と尊厳の尊重、個別性の尊重、多様性の尊重(ジェンダー、年齢、民族、国籍、障害など)、ソーシャル・インクルージョン、権利(セルフ・アドボカシー)	
		多職種連携(チーム活動)、地域連携 資質向上の責務、技能の向上、生涯学習、心理職としての成長	
	科学者-実践家モデルおよびエビデンスにもとづいた実践ができる	科学的な態度(自らの実践への根拠に基づいた批判的態度)、基礎的心理学の知見の理解と実践への適用	
		生物心理社会モデルによる統合的理解と実践 エビデンスの参照、利用、構築、普及 研究活動 事例に対するケースフォーミュレーション	
	心理的アセスメントとケースフォーミュレーションを適切に実施できる	アセスメントツールの利点と限界を理解した適切な実施 アセスメント結果の適切なフィードバック	
		ケースフォーミュレーションにもとづく介入方針の決定 エビデンスや治療ガイドライン等を参照した介入方針の決定 アセスメントにもとづく介入の適切な実施、評価、再アセスメント コミュニケーション(共同意思決定を推進する能力、インフォームド・コンセント、説明責任)、危機介入、自殺予防	
	心理的介入を適切に実施できる	ケースフォーミュレーションにもとづく介入方針の決定 エビデンスや治療ガイドライン等を参照した介入方針の決定 アセスメントにもとづく介入の適切な実施、評価、再アセスメント コミュニケーション(共同意思決定を推進する能力、インフォームド・コンセント、説明責任)、危機介入、自殺予防	
ケースマネジメント、および関係機関との連携が適切に実施できる	包括的(地域生活支援)視点でのアセスメント、多職種連携、地域・他機関との連携、リファール、公的扶助や地域福祉支援活用の提案、リスクマネジメント		
関係者への支援を適切に実施できる	家族等関係者への支援、家族等関係者や介入スタッフへの説明責任、他の専門職や関係者へのコンサルテーション		
心の健康教育を適切に実施できる	心の健康教育の企画、立案、実施、評価		

黄色部分は公認心理師の会がとくに重視するコンピテンス

カテゴリー	大項目	中項目	小項目
I. 科学者-実践家の基礎	エビデンスの参照と利用ができる	エビデンスベースドアプローチ 最新のエビデンスの探索 システマティックレビューとメタ分析の吟味 科学者-実践家モデルの実践 科学的な態度(自らの実践への根拠に基づいた批判的態度) 公衆衛生 疫学	
		エビデンス構築 臨床研究の方法論 臨床研究倫理 医学系学会情報と学術業績の蓄積・発信方法 研究活動 論文・学会抄録の書き方、プレゼンテーション	
	生涯学習ができる	心理職としての成長 技能向上 スーパーヴィジョンの活用	
	心理師としての倫理感を備えている	患者の主体性や尊厳の尊重 倫理的配慮 適切な情報の取り扱い	
II. 医療基礎	医療領域で働く際に必要な制度・法規の知識を備えている	医療保険制度 障害福祉サービス、介護保険、社会保障 医療関連法規や医療政策 医療関連法規 心理師が関連する診療報酬(診療報酬の仕組みや改定までの成り立ちも含む) 精神保健サービス	
		医療倫理 衛生管理 医療安全(感染対策、医療事故の対応やリスクマネジメント、Standard precaution、医療事故の予防、報告、再発防止に関する知識や技術、情報共有などの基本的な姿勢などを含む) 基礎的な医療用語 補助器具の操作方法(車椅子やベッドの操作方法などを含む) 医療における接遇マナー(死亡退院の際のお見送り・お焼香のマナーも含む) 救急医療(BLS、AEDの使い方を含む)	
	身体知識を備えている	身体疾患の医学知識 解剖生理(脳・身体の仕組み)	
	組織のアセスメントができる	病院の機能や分類 組織(医療機関、所属部署)のアセスメント(心理的援助のニーズ、指示伝達系統) 組織の一員としての責務を果たす(会議出席、職員研修の参加、経営状況や幹部の意向の把握など) 社会全体における実践の位置づけを、社会動向・政策動向を把握しつつ俯瞰できる態度	
III. チーム医療	他職種とのコミュニケーションができる	コンサルテーション技能 他職種とのコミュニケーション能力 精神症状や心理的支援に関する説明能力	
	他職種の専門性を理解できる	他職種の専門性を知る 他職種のアセスメント	
	情報を収集し共有することができる	適切なカルテ記載 情報収集技能(カルテ、患者、他職種から) 情報共有技能(いつ誰にどの情報をどこまで伝えるかの判断力) 遅延のない的確な情報共有	
	チームの一員として活動できる	多職種協働・他職種連携 チーム運営の支援 医療領域でのチームワーク(チーム STEPPS など) 当事者のニーズと組織のニーズの両方に即した支援ができる チーム内キーパーソンの特定 自己完結、自己責任(医療専門職としての自覚) 組織マネジメント 心理師の役割の理解 チームの方針に沿った役割を遂行できる スタッフのメンタルケア	
	地域連携ができる	地域連携 アウトリーチ	
	災害時のケアができる	サイコロジカル・ファーストエイド DPAT(災害派遣精神医療チーム) 支援者のケア	

IV. 心理アセスメント	精神症状のアセスメントと鑑別ができる	<p>操作的診断分類 (DSM 1 CD)</p> <p>精神症状の特徴</p> <p>心理的負荷と精神症状と身体症状のつながり (神経系、内分泌系)</p> <p>精神症状と身体症状の鑑別の基礎</p> <p>人格・情動・精神症状のアセスメント</p> <p>特に大うつ病、統合失調症、双極性障害のアセスメント</p> <p>精神症状のリスク評価ができる</p>	
	心理検査ができる	<p>テストバッテリー</p> <p>各種心理検査の選択と実施</p> <p>構造化面接法</p> <p>発達および知能検査</p> <p>人格検査</p> <p>認知機能検査その他の心理検査</p> <p>各種心理評定尺度</p>	
	所見作成とフィードバックができる	<p>所見作成とフィードバック</p>	
V. 心理的介入	モデルに関する知識を備えている	<p>生物・心理・社会モデル</p> <p>心理学的ストレスモデル</p> <p>心身相関</p>	
	見立てと介入方針を立案できる	<p>アセスメントで得られた情報の整理</p> <p>症状の維持プロセスの理解</p> <p>心理教育</p> <p>介入方針の立案</p> <p>介入の評価と再アセスメント</p>	
	精神症状への介入ができる	<p>治療ガイドライン (薬物療法及び精神療法含む)</p> <p>薬物療法の基礎</p> <p>精神症状に対する基本的対応</p> <p>精神科リハビリテーション</p> <p>精神科救急</p> <p>入院適応・行動制限の判断</p>	
	付加的な心理介入ができる	<p>危機介入 (アクティングアウト、事故、自殺)</p> <p>家族支援</p> <p>自殺予防</p>	
	当事者・家族とのコミュニケーションができる	<p>情報提供におけるコミュニケーションスキル</p> <p>患者とのコミュニケーション</p> <p>心理的支援の言語化</p> <p>共同意思決定を推進する能力</p> <p>インフォームド・コンセント</p> <p>治療同盟</p> <p>他者 (他スタッフ・当事者・家族等関係者) への説明責任を果たす態度</p>	